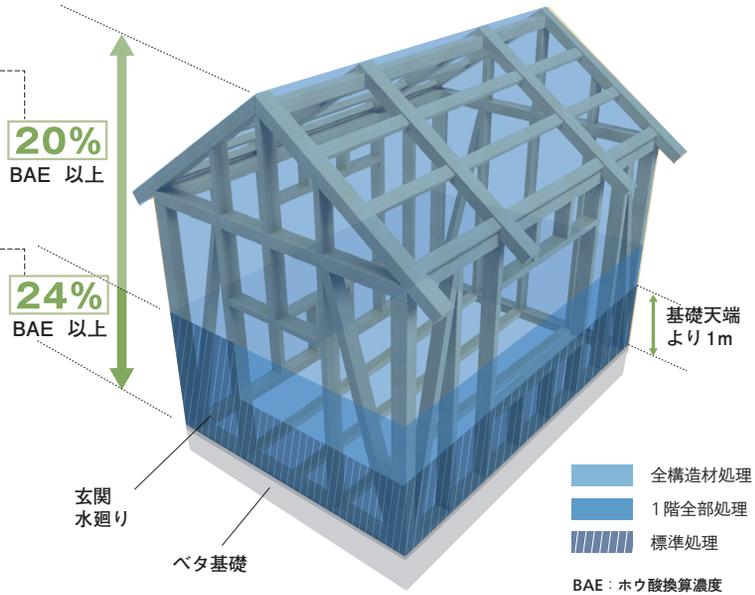


家の上部から侵入するアメリカカンザイシロアリへの対策を併せて行う場合は、基礎立上り天端から1m以上の部分についても、高濃度ホウ酸水溶液（ホウ酸換算濃度BAE：20%以上）を塗布する

「ボロンdeガード」によるシロアリ（イエシロアリ・ヤマトシロアリ）および木材腐朽菌の対策イメージ。標準的な方法としては、基礎立上り天端から1mの高さまでの木部に、超高濃度ホウ酸水溶液（BAE：24%以上）を塗布する。ただし、リスクの高い水廻りや玄関では天井までの高さに塗布する



シロアリが侵入可能な隙間は、ヤマトシロアリが0.6~1.0mm程度、イエシロアリが1.1~1.3mm程度であり、玄関土間の基礎コンクリート打継ぎ目地部分は侵入経路の1つになる。写真は「ポレイトシール」を用いてシーリング処理を行っている様子



15年保証のホウ酸シロアリ対策

ボロンdeガード／日本ボレイト

そこで注目を集めているのが、「ホウ酸」によるシロアリ対策である。「ホウ酸」を塗布した木材をシロアリがほとんど摂食しないことを利用した対策だ。ホウ酸は自然素材の一種（天然の無機鉱物）であり、温泉などにも多く含まれ、

造建築物に必要不可欠なシロアリ対策。具体的には、木材に薬剤を塗布・注入する方法と、シロアリの侵入を物理的に防ぐ方法の2つに大別され、日本では前者が主流となっている。したがって、薬剤に関する正しい知識が求められる。

シロアリ対策の薬剤として昔から使用されてきたのが、「合成殺虫剤」と称されるもの。そのなかで現在、人体への影響を考慮して、JAS規格で使用が認められているのが、アルキルアンモニウム化合物系や、銅・アルキルアンモニウム化合物系などの薬剤だ。ただし、合成殺虫剤は経年で揮発してしまうので、有効期間は5年程度と短いことが弱点。建物の長寿命化やリノベーションへのニーズが高まるなか、シロアリ対策としては不十分であろう。

「ボロンdeガード」は、建築家伊礼智氏（伊礼智設計室）がプロデュースを手がける「WORKS」でも標準採用されている。木造建築の美しさを持続させるためには欠かせない工法といえるだろう。

●新築の場合

保証の種類	5年保証	10年保証	15年保証	再施工 10年保証
条件など				
ベタ基礎またはシロアリ侵入経路遮断処理[*1]を適切に施した防湿コンクリート	○	○	○	○*2
定期検査(5年ごと)	0回	1回	2回	1回

●既存住宅の場合

保証の種類	既存 5年保証
条件など	
ベタ基礎またはシロアリ侵入経路遮断処理を適切に施した防湿コンクリート	○
床断熱／基礎内断熱	○
基礎外断熱	適用外

*1 シロアリ侵入経路については日本ボレイトホームページを確認
*2 新築時にボロンdeガード新築シロアリ保証を付保し、その付保条件に合致した状態が継続していることが条件

「ボロンdeガード」による保証制度一覧。新築では最長15年の保証が受けられる（定期検査は5年ごとに行う）

※ 改修の場合は5年（ベタ基礎が条件）。それ以外の場合のためには再施工保証があり、防蟻処理をして5年以内にシロアリが発生した場合は無償で再施工をする（修復費用以外）